

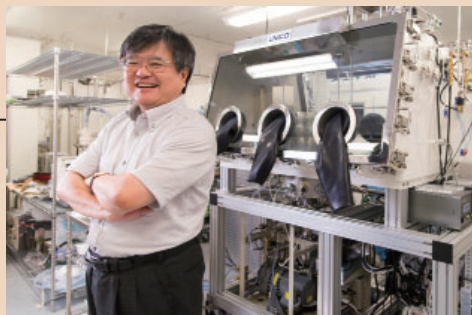


平本 昌宏

分子科学研究所 名誉教授
(前 分子科学研究所 物質分子科学研究領域 教授)

一炊の夢

ひらもと・まさひろ / 1958年広島生まれ。1984年大阪大学大学院基礎工学研究科化学系博士課程中退。1984年分子科学研究所文部技官。1988年大阪大学工学部助手、1997年准教授を経て、2008年より教授。2023年3月退職、2023年4月より分子科学研究所名誉教授。専門は有機半導体の光電物性と太陽電池、デバイス応用。



あっという間でした。20才で阪大基礎工学部の坪村研究室において、研究に携わって45年間、研究の喜びと苦しみ、両方とも経験しましたが、終わってみると、「一炊の夢」のような気がします。

二つの期間分子研にお世話になりました。26から30才にかけては文部技官として、50から65才にかけては教授として。

技官時代は、研究三昧でした。一生のうちで一番幸せだった時代でした。この時代に、坂田忠良助教授（当時）から、研究はオリジナリティー（アイデア）が一番大事ということを知りました（写真）。これが、私のその後の研究スタイルを決めました。井口先生の創始された有機半導体に関わり、30才前半でバルクヘテロ接合などのオリジナルな発明につながりました。若い時の経験は人の生き方を決めます。分子研は若い人が研究三昧の生活を送れる世界的にも恵まれた場所です。この良さを分子研は決して失ってほしくない。

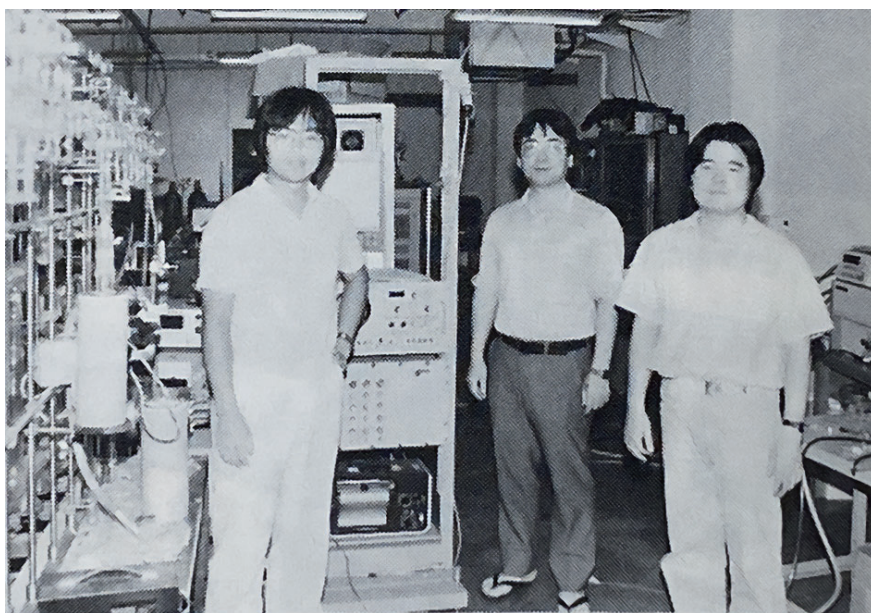
教授時代は、次世代の若い優秀な研究者の台頭を目の当たりにしました。研究はオリジナリティーが一番大事なことを、少しでも若い人に伝えることができたと思います。全力を尽くしました。この人生に悔いはありません。

基礎研究は「選択と集中」ではない。お金を集中できるということは、論理的には、そこに価値があることがすでにわかっているということです。オリジナリティーという意味ではすでに終わっています。本当に新しいことは、非常に低い確率でしか出ないのですから、ただでさえ低い確率を下げないことが肝要です。肥やしを撒くように、大きな額でなくてもまんべんなくばらまくことが大事です。誰も読まない報告書などのくだらない作業で、研究者を疲弊させないでください。興味のおもむくままに究めていける環境、静かに

深く考えることのできる時間を意識的にでもとることが大事です。

PIの先生方をお願いします。若い人が育つ恵まれた環境が残ってる分子研を守ってください。

若い先生方をお願いします。昨今、我が国は人口が減るから未来は暗いというような、言説が罷り通っています。そのような何も知らない無責任な人間の言葉に騙されてはいけません。若い人には光り輝く未来が広がっています。オリジナリティーのある研究をして、世界に羽ばたいてください。



坂田グループ（実験棟3階、1987年、分子研設立12年）
橋本和仁助手、坂田忠良助教授、私

古賀 信康

大阪大学 蛋白質研究所 (IPR) 教授
 生命創成探究センター 生命分子創成グループ 教授 (兼務)
 分子科学研究所 協奏分子システム研究センター 教授 (兼務)
 (前 協奏分子システム研究センター 准教授)

分子研で過ごした日々を想いながら

こが・のぶやす / 2006年神戸大学・自然科学研究科にて博士号 (理学) 取得。同年、神戸大学・理学部・特別研究員。2007年京都大学・理学研究科・特別研究員。2007年ワシントン大学・生化学科・日本学術振興会海外特別研究員。2009年ワシントン大学・生化学科・特別研究員。2014年分子科学研究所・協奏分子システム研究センター・准教授。2018年生命創成探究センター・生命分子創成グループ・准教授を経て、2022年10月より現職。



半年前ぐらいから原稿の依頼を受けていたものの、いざ何を書こうかと考え始めると、いろいろなことが頭に思い浮かんで心が一杯になってしまい、何をどこから書いて良いのか分からなくなってしまう。毎日通った道の風景、研究所での生活、お世話になった人々、好きな場所、おいしい食べ物……。[分子研]という場所は、自分にとってそれぐらい特別な場所なのだと思う。

この原稿を書いているのは、大阪に越してきて4ヶ月経った7月末のころです。自宅への引っ越しは終わったものの、段ボール箱に詰めた荷物はまだ外に出されていないものも多くあり、分子研の居室と実験室の引っ越しはまだ終えておらず、先週末に岡崎に行って片付けと引っ越しの梱包をようやく終えてきたところです。とはいうものの、少しずつこちらでの生活に慣れ、生活のリズムが生まれてきました。岡崎に住んでいたときは、朝、散歩のついでに六所神社にお参りに行くのが日課でしたが、大阪では風呂と玄関の掃除をして植物に水をあげるのが日課となりました。また先日は、隣人から畑のト

ウモロコシをいただき、小学4年生と2年生の子供たちが話す言葉には、ときどき関西弁が混ざりはじめました。岡崎での生活の肌感覚をまだ残しつつ、大阪での新しい生活を楽しんでいる、そのような時にこの原稿を書いています。

私が分子研に着任したのは2014年4月のことです。シアトルでの7年間のポスドク生活を終え、妻と生まれただばかりの長女と一緒に岡崎に来ました。分子研に着任した日、研究所の入口、守衛室の前に咲く桜の下を通るときの風景とその時に感じたことは今でも覚えていています。大峯所長からは「時間はかかっても良いから、しっかりとした仕事をするように。」と、お言葉をいただきました。また、大峯所長から「分子研では教員間の関係がとて近いです。」とも言われました。たしかに、分子研では学生が少ない分、教員間での結びつきが強いように思います。多くの教授・准教授の先生方の生き様や考え方を学び影響を受けました。また、たくさんお世話になり、たくさんご迷惑もかけました。ところで、私の勝手な脳

内設定なのですが、大峯所長を“父”、川合所長を“母”、秋山センター長を“兄”、としていました。兄の背中を見て学び、母からは厳しさと優しさのある言葉と、ときどき美味しいものを頂きました。加藤センター長は、“叔父”です。それから、技術課、戦略室、秘書 (特に古賀Gの鈴木さん) の皆様にもお世話になりました。研究に集中することができたのは、皆様あってこそでした (ときどきする雑談もとても楽しかったです!)。

私が定年するまで後20年ほどあるのですが、これからも色々とお世話になるかと思っています。これまで本当にありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

追伸：阪大では昔分子研にいらした人 (現在10名ほど) からなるOB会があります。私と南谷さんの着任のお祝い飲み会を開催して頂きましたが、とても楽しかったですよ。

下出 敦夫 大阪大学 産業科学研究所 助教
(前 理論・計算分子科学研究領域 助教)

研究者も人であるということ

したで・あつお / 2012年3月に東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻で学位を取得後、日本学術振興会 特別研究員 (PD) や理化学研究所 基礎科学特別研究員等を経て、2019年11月より分子科学研究所 理論・計算分子科学研究領域 助教。2023年3月より現職。鰻を食べたい。

2019年11月から2023年2月までおよそ3年、分子研には大変お世話になりました。それまで7年半ポスドクとして各地を渡り歩いてきた私にとっては、まったく分野の異なる私を採用して下さった南谷先生をはじめとする先生方には感謝しかありません。私が最初の助教なのですが、南谷先生が大阪大学 産業科学研究所に教授として転出されたため、ついていく形で転出することになりました。

着任してすぐに参加した国際会議で山本グループの廣部さんと知り合い、カイラリティ誘起スピン選択性について教わって研究に取り組みました。実は山本先生は私の卒業研究の試料を提供して下さった方で、お会いできたときには感激しました。それ以外に「分子研らしい」論文はありませんが、研究以外の業務が少ないという分子研の

長所を活かし、所外での共同研究を積極的に行うことができました。研究以外の面では、岡崎は公園が多く、また子ども医療費助成によって医療費の自己負担がなく、幼稚園に通い始めた子供をもつ私にとってとてもよい環境でした。先生や秘書さんたちとさまざまな鰻屋に行ったのもよい思い出です。分子研で関わった方々、特に秘書室の赤羽さん、千葉さん、増田さんにこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、以下に書くことは決して分子研だけの問題ではなく、最近の学生や若手研究者の誰もが感じていることかと思えます。しかしながら、分子研には転出推奨の文化があることも踏まえ、あえてここに書き残しておきたいと思えます。

大阪に引っ越すことが決まってから、年少の子供は私に何度も引っ越し

たくないと言っていました。幼稚園の友達から手紙をもらったときに、妻に手伝ってもらいながら「さみしいけどがまんするね」と返事を書いていました。子供を親しい友達から引き離して泣かせるような職に就いたことを私は恥じました。偉い人達が人材の流動性を語る時、その裏には家族がいるということがすっぱり抜け落ちているように感じます。私も未婚のときはそうでしたが、私より優秀な人材はそれを見越しているのかもしれませんが。彼らが研究職に見切りをつけていることを鑑みると、人材の流動性が研究者や研究そのものの質の向上につながっているかも疑わしいところではありますが、まずは研究職が家族に誇れる職であってほしいと思えます。

伊澤 誠一郎 東京工業大学 科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所 准教授
(前 物質分子科学研究領域 助教)

分子研への感謝

いざわ・せいいちろう / 東京工業大学 科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所 准教授、科学技術振興機構 さきがけ研究者 (革新的光技術領域)。有機太陽電池、有機ELなどの有機光エレクトロニクスデバイスの高効率化や、光アップコンバージョンなど有機半導体分子を使った新たな光機能の創出に関する研究に従事。



2016年4月から2022年12月まで6年8か月の間、分子科学研究所・物質分子科学研究領域・分子機能研究部門 (平本研究室) の助教としてお世話にな

りました。在籍中には数多くの先生方、職員の方々のお力添えのおかげで充実した研究生活を送ることができました。特に上司の平本昌宏先生、また川合眞

紀前所長、渡辺芳人所長には研究活動をご支援いただき、そして折に触れて激励をしていただき、お陰様で思う存分自分の研究に打ち込むことができま

した。

分子研の助教というポジションは研究者としてのキャリアをスタートさせる場所としてこの上ない環境でした。一般的な大学と比較して雑用が少なく、一週間のほとんどの時間を研究活動だけに費やすことができます。今考えると、この楽園のような時間はもう二度味わえないと思います。自由で何もすることがない時間は時には辛いものです。しかし、キャリアが浅い自分にとって、どのような方向を目指すべきか深

く考える絶好の機会となりました。

その反面、やはり内部昇進がなく、転出が必須という掟は、若手研究者としては否応なしにプレッシャーを感じるものだと思います。しかし、内部昇進がないことは、内部での政治や競争が発生しないという良い面もあると思います。お陰様で尖った研究をされている所内の先生方とフランクに交流させていただくことができ、とても刺激になりました。

2023年1月からは東京工業大学・

科学技術創成研究院・フロンティア材料研究所にて研究・教育活動に従事しております。大学でのポジションということで、これまでのように自分の研究のことだけを考えていればいいとはいきませんが、分子研時代に培った深く思考する習慣は大切にしていきたいと思います。今後は研究だけでなく、学生さんを育てることににより注力していきたいと考えています。

杉山 晴紀

総合科学研究機構 中性子産業利用促進センター 研究員
(前 生命・錯体分子科学研究領域 助教)

分子研での思い出・感謝

すぎやま・はるき / 2018年東京工業大学理工学院物質科学専攻博士後期課程修了、博士(理学)
専門: 結晶学 趣味: 野球観戦、旅行。近況: 茨城県の新居では、トイレにゲジゲジがたびたび出没し、悪戦苦闘しております。



2021年2月より2023年3月まで、生命・錯体分子科学研究領域 瀬川グループの助教としてお世話になりました。2年1か月と大変短い間でしたが、瀬川准教授をはじめ、瀬川グループの秘書さん、技術支援員さん、学生さん、合同居室の草本グループの皆様、そしてたくさん分子研スタッフの皆様にご協力いただきながら、濃厚かつ楽しい研究生生活を送ることができました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

分子研に着任する前は、慶應義塾大学で文系学生への化学実験を教えておりました。化学教育に充実感を感じる一方で、「もっとバリバリ研究して、合成も結晶構造解析もできる研究者になりたい」という願望(野望?)を膨らませていたところ、幸いなことに瀬川グループの助教として採用いただきました。数年ぶりに研究中心の生活に

戻った一年目は、体力不足や不慣れな合成操作も相まって様々な困難と直面しましたが、瀬川グループの皆様の支えのおかげで乗り切ることができました。二年目からは、生理学研究所の村田教授と宋助教にご協力いただきながら、電子ビーム三次元結晶構造解析(MicroED)の立ち上げプロジェクトを開始しました。専門の先生方からのご助言を元に、瀬川グループの学生さんの力も借りながら試行錯誤を重ねて、半年後に標準試料の構造解析を、その3か月後には新規物質の構造解析を達成することができました。

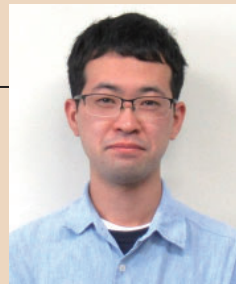
現在は、総合科学研究機構 中性子産業利用促進センターの研究員として、産業利用の促進に資する先導研究を進めています。分子研は、各分野の最先端に行く研究者が集まり、整備された分析機器類が自由度高く使える、まさに研究に没頭できる最高の環境だと思

います。学生やスタッフの、熱量高く議論する、成果を喜び合う、といった研究に真剣に熱心に向き合う姿に、大変刺激を受けました。また、たくさんの研究者と話す機会に恵まれ、同じ研究者であっても価値観や性格、ライフワークバランスは少しずつ違っており、多様なタイプがいるということに気が付きました。これは、「研究者はこうでなければならない」という固定観念に苦しんでいた私にとって救いとなる知見でした。

分子研で培った多くの経験を礎に、また分子研で得た人のつながりを本当に大切にしながら、今後も研究活動を精力的に進めていきたいと考えております。これからも何卒宜しく申し上げます。

山本 航平

量子科学技術研究開発機構 次世代放射光施設整備開発センター 研究員
(前 物質分子科学研究領域 助教)



分子研から NanoTerasu へ

やまもと・こうへい / 2019年3月まで東京大学大学院理学系研究科物理学専攻、同年4月から2023年3月まで物質分子科学研究領域助教。2023年4月より現職。

私は2019年4月から2023年3月までの約4年間横山グループにお世話になりました。着任前はSPing-8に常駐しながら放射光X線を用いた研究を行っており、UVSORを擁する分子研の名前は知っていましたが、その職員になるとはあまり想像したこともなかったため、緊張しながら着任した記憶があります。研究面では、放射光X線を用いた磁性などの物性研究とその手法開発をおこなってきました。分子研のUVSORなどを活用でき、とても

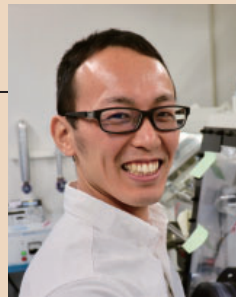
ありがたいことだったと感じております。このような機会を与えていただいた横山先生に感謝します。またほとんど同時期に着任・離任した横山グループ助教の小板谷さんには大変お世話になりました。また、横山グループや機器センターの石山さん、石川さん、栗田さん、UVSORの岩山さん、中村さんにもお世話になりました。

現在、私は仙台に建設が進められている3GeV高輝度放射光施設“NanoTerasu”において、ビームラ

インの整備開発を行うグループに所属しております。高輝度な軟X線が利用できる本施設で特に進歩が期待される、共鳴軟X線非弾性散乱測定装置の開発に従事しております。固体物理に限らず多彩な分野で役立つツールと思いますので、分子研の方々にもご活用いただけたらありがたいです。大規模施設の立ち上げ期の困難もありますが、分子研で得た経験等を活かしながら開発を進めていきたいと思っております。

竹入 史隆

理化学研究所 開拓研究本部 小林固体化学研究室 研究員
(前 物質分子科学研究領域 助教)



分子研満喫しました！

たけいり・ふみたか / 2017年に京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻で博士号（工学）を取得。2018年4月より分子科学研究所小林グループにて博士研究員、同年11月より助教。2023年4月より現職。専門は無機固体化学分野における新物質探索と機能物性開拓。今後も見つけた物質の評価で共同利用のお世話になるつもりです。引き続きよろしくお願いたします。

分子研には2023年3月末まで、ちょうど5年間お世話になりました。学位取得後の職に困っていた私でしたが、小林グループのポスドク募集を頼りにお伺いを立ててみたところ、運よく拾っていただき、岡崎の地に足を踏み入れることができました。それまで分子研は来たこともなければ知り合いもない、いわば完全アウエーでしたが、5年も経てばすっかりホームになってしまいました。

私の在籍時は所全体にオープンス

ペース推進の流れがあったこともあり、たくさんの人たちとのおしゃべりを楽しむことができました。私は分子研の本流である物理化学あるいは分子科学との接点が無かったぶん、誰と話しても新鮮で、少しお話するだけで自分まで賢くなった気になりました。分子研コロキウムでさっぱりわからない講演を聴くのも好きでした。演者は超一流の研究者ばかりですから、聴くだけでテンションが上がることも多く、会場から次々と繰り出される鋭い質問には

感心しきりでした。そのような成果に直結するわけでも役に立つわけでもない、ただただ贅沢な時間を満喫できたのは、私の人生における大きな財産です。もちろん昨今、そんな時間が自然発生することはありえません。所長や主幹教授をはじめ運営を担う先生方から、もっと大袈裟に言えば偉大な先人が築き上げてきた分子研から、駆け出し研究者への、無形のギフトだったのだと思います。

最後に文字数が許す限りの謝辞を。

小林先生には分子研採用時から現在進行形で多大な配慮をいただいております、感謝してもしきれません。小林グループOBOGの皆様にもいつも支えていただきました。CIMoSではみなさまが集中してお仕事されているなか、朝も昼も夜もコーヒーを飲んでいてすみませんでした。小林先生のご栄転後は多くの人に気にかけていただき、秋山先生、山本先生、古賀さん、小杉さん、倉持

さん、米田さん、三輪さんには特にお世話になりました。領域長の横山先生には静かな口調でエンカレッジしていただきました。息子に「このおばあちゃんはね……」と紹介しようとしたら、「おばあちゃんじゃないわよ！」と川合前所長には叱られました。渡辺現所長に振る舞っていただいたワインは美味でした。機器センターや装置開発室の皆様には、こちらの無理難題にも誠実に

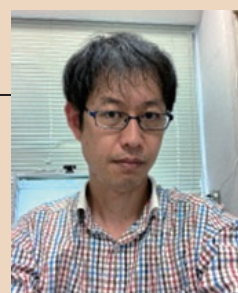
ご対応いただきました。戦略室のお姉様方とは、くだらない話題しかないランチができて楽しかったです。ほんわかしたさくら保育園と、ノスタルジックな亀美ヶ丘住宅のおかげで、息子もすくすく成長しました。ほかにも名前を挙げきれないほど多くの方々や施設にお世話になりました。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

向山 厚

福井県立大学生物資源学部 准教授
(前 協奏分子システム研究センター 助教)

分子研でのかけがえのない時間を振り返って

むかいやま・あつし / 2007年3月大阪大学大学院工学研究科物質・生命工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)取得。その後、分子科学研究所IMSフェロー、名古屋大学大学院理学研究科博士研究員を経て、2012年9月より分子科学研究所助教。2023年4月より現職。



私は2012年の9月から2023年3月までの10年と6か月の間、秋山修志教授の研究グループに助教としてお世話になりました。2007年4月から2009年の12月まで桑島邦博教授(現・分子研名誉教授)の元でIMSフェローとして所属していましたので、約13年間、分子研で過ごしたことになります。転出を意識し始めて以降、同士だった助教の書く「分子研を去るにあたり」を読むにつれて、次こそはとの思いを強くしたのですが、いざその役目が回ってきた現在の心境は嬉しさ半分、寂しさ半分といったところ。福井に移って3か月ほどが経ち、新しい環境にも慣れてきました。と言いたいところですが、初の雪国生活となる私(家族を含む)にとって、一冬を超えるまでは安心できません。そんな私に周りの先生方や学生が福井の雪の厳しさとその対策について色々と親身になって教えてくれます。

幸いにも助教として採用していただき、再び分子研に足を踏み入れた当時、秋山グループは立ち上がってまだ日が浅かったこともあり、実験室環境のセットアップから始まりました。秋山先生のアイデアとこだわりの詰まった実験スペースが出来上がる様子を間近で見た経験は、私自身の今後の環境構築における指針となっています。また、これから始まる研究活動に思いを馳せ、高揚したその時の感情はおよそ10年経った今なお鮮やかに記憶されています。

秋山グループでは、生体内の時間を計る時計タンパク質の研究に取り組みました。在任中は物心両面からサポートしていただいたおかげで、多くの成果を挙げることができました。福井県立大学・生物資源学部はその名が示すように、生物資源の有効利用を目指した組織です。分子研で培った経験、知識を活かして基礎研究に邁進するとともに、応用研究を意

識した自分らしいサイエンスの開拓に挑みたいと思います。

最後になりましたが、大峯巖元所長、川合眞紀前所長そして、渡辺芳人所長をはじめ、お世話になった分子研の皆様、ならびに事務センターの皆様へ深く感謝申し上げます。特に、ご指導いただいた秋山教授には言葉で表現するのが難しいほど感謝の気持ちでいっぱい。齊藤真司教授、森俊文博士(現・九州大学)、甲田信一博士には、共同研究を通じて刺激的な時間を過ごさせていただきました。そして、同じグループの助教として共に切磋琢磨した古池美彦博士、および秋山グループの皆様とは楽しく、有意義な毎日を送ることができました。ありがとうございました。立場は変わりますが、分子研の卒業生として今後ともどうぞよろしく願いいたします。